

「教職教養課題特講」の評価

社会科教育・鴛原 進

1. 授業の基本情報・概要

(1) 授業担当者

富田英司先生と鴛原 進をシラバスにおいて登録している。

(2) 授業の目的

授業の到達目標

1) 教科指導力についての理解を深め、実践的知識を身につける。

2) コミュニケーション力の基礎として、「話す力」「聞く力」「話しあう力」を身につける。

3) 教育実践に学び、教育課題を自ら発見し、問題解決を志向する態度を身につける。

(3) 愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる。

社会的関係の中で自分の行動を調整できる。

地域や国内外の課題を自ら考察し、解決に向けて行動できる。

(4) 授業概要

本授業は、教育学部において唯一「キャリア形成セミナー」に指定されている。

履修登録者 46 人（教職教養課題特講 I としての履修登録 1 人を含む。）、単位修得者 37 人であった。

講義の概要は、右段のようである。

日	日時 (水・08:30-10:00)	担当	講義内容	教室
①	10月9日(水)	鴛原・富田	全体概要	教育学部401講義室
②	10月16日(水)	富田	地域との連携：松山市青少年センターでのフィールドワーク事前指導	教育学部401講義室
③	10月23日(水)	富田	地域との連携：松山市青少年センターでのフィールドワーク	教育学部401講義室
④	10月30日(水)	鴛原・愛媛県警署	地域との連携：愛媛県警による防犯等についての講話	教育学部401講義室
⑤	11月6日(水)	富田	教職への動機とキャリア形成、キャリア・ポートフォリオ入門・制作①	教育学部401講義室
⑥	11月13日(水)	富田	教職へのキャリア形成：キャリア・ポートフォリオ制作②/小規模校学校の現状と課題	教育学部401講義室
⑦	11月20日(水)	鴛原・富田	地域との連携：愛媛県の教員採用試験の状況/履式学級での授業方法	教育学部401講義室
⑧	11月27日(水)	富田	地域との連携：小規模校 (久万町立久万中学校) 訪問	久万中学校
⑨	12月4日(水)	富田	現在の学校教育実践のトピック：防災	教育学部401講義室
⑩	12月11日(水)	富田	現在の学校教育実践のトピック：体育	教育学部401講義室
⑪	12月18日(水)	富田	現在の学校教育実践のトピック：言語活動	教育学部401講義室
⑫	1月8日(水)	富田	作成したポートフォリオを使ったリフレクション	教育学部401講義室
なし	1月15日(水)	富田	小規模校訪問の代替	小規模校訪問の代替
なし	1月17日(金)曜日 6:30出発	富田	小規模校訪問(小規模校(1)豊後高野小学校(2)豊後高野小学校(3)豊後高野小学校)	小規模校(1)豊後高野小学校
なし	1月22日(水)	富田	小規模校訪問の代替	小規模校訪問の代替
なし	1月29日(水)	富田	地域との連携：教育実践指導/小規模校訪問の公開報告会	教育学部401講義室
なし	2月5日(水)	富田	小規模校訪問の代替	小規模校訪問の代替
			小規模校訪問を遠隔学習とする。	
			青色のセルは「教師へのキャリア形成」	
			オレンジ色のセルは「現在の学校教育実践のトピック」	
			緑色のセルは「愛媛で実践している本学コンピテンシー領域との連携」	
			授業時間外学習	授業内容に関する小レポートを撰す。また、グループディスカッションに向けて資料収集を行うなどして考えを深めておくことが求められる。
			受講のルール	遅刻は厳禁。授業開始5分前には講義室に入っておく。
			成績評価方法	到達目標の実現状況を評価する。評価の方法と配分は以下のとおりである。 目標 1：50点（小レポート、レポート） 目標 2：30点（ディスカッションの観察、レポート） 目標 3：20点（学習態度の観察）
			連絡先（富田）	richihsa.yasunori@shimane-u.ac.jp

2. 授業評価・授業研究の内容

DP 対応調査により 30 人から回答を得た。

3. 知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。



4. 技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。



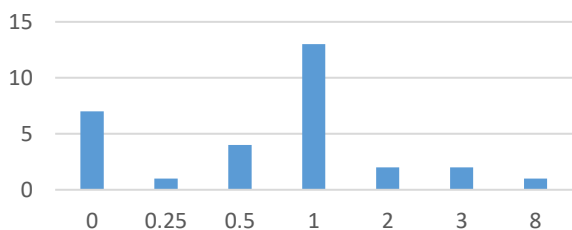
5. 思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもち、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。



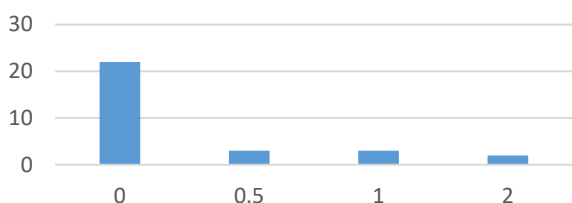
6. 興味・関心・意欲、態度：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。



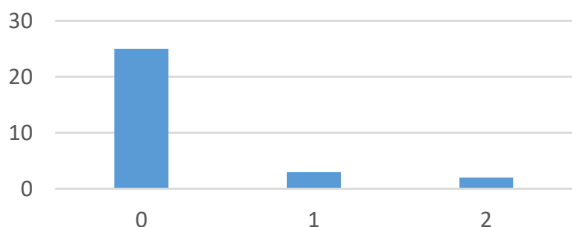
個数 / この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。



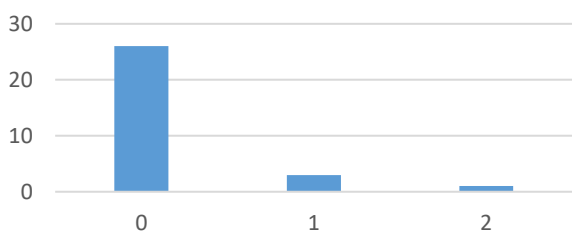
個数 / この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。



個数 / この授業を受けて、自分で自発的に読んだ本や論文の数はいくつですか。ない場合は0とご入力ください。



個数 / この授業をきっかけにして取り組んだ、教育実践や授業時間外での制作等の自発的活動は何件ありますか。ない場合は0とご入力ください。



### 3. 総括

D P 対応調査から、本授業は、教育学部の D P に対応しているとの認識を受講生が持ってくれていることがわかった。「技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。」の観点については、次年度の課題としたい。学生の自発的な活動についても、より活発になるよう次年度の課題としたい。

教職課程認定や履修の手引によると、次年度は、「大学が独自に設定する科目」となる。